



## 新大学における社会福祉学部・同研究科の統合再編 について

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2009-08-25 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 土井, 洋一 メールアドレス: 所属:
URL	<a href="http://hdl.handle.net/10466/3472">http://hdl.handle.net/10466/3472</a>

# 新大学における社会福祉学部・同研究科の 統合再編について

前社会福祉学部長

土井 洋 一

2001年8月1日付けで、私は里見学部長の後任学部長に選任された。この非常時、私としては、1期2年間で条件に引き受ける覚悟を固めていた。大阪府立大学にも大きな波が襲ってきて、これまでのあり方がそのまま通らないという状況認識は、当然、私にもあった。国立大学の法人化と再編問題が現実化し、公立大学にも及んできていたからである。とりわけ、全国で最も財政難の深刻な大阪府にあって、府立の3大学統合再編は必至と思われた。そうであれば、事前に対応策を考えなければならない。

社会福祉学部・同研究科は、中百舌鳥キャンパスの中でいぶし銀の存在価値を維持してきた。少なくとも私たちはそう自負してきたが、いかんせん組織規模が小さい。しかも、実員21名の教員規模は、設置者による全学的な教員定数削減計画の実施によってさらに小さくなる（10年間で18名に削減）見込みとなるに及んで、短期的な引き伸ばし戦術はともかくとして、現状維持は不可能になったのである。

私は、大阪府立社会事業短期大学が大阪府立大学に再編されて4年目の1984年4月、本学部へ赴任した。学生定員50名、教員定員22名、大学院はまだなかった。福祉系の有力校の一つであったから、日本社会福祉学会、日本社会事業学校連盟等、対外的な多くの実務も引き受け教員たちは多忙であったが、やがて学生定員が70名に増員され、大学院博士前期・後期課程が設置された。部局内外の校務も、増えるばかりであった。

学部創設以来、学部を名実ともに支えた教員たちの（定年）退職が相次ぐなかで、教員組織も大幅に入れ替わった。疲弊する教育研究組織を立て直す意味からも、部局の維持は困難になったという認識を私が当初からもっていたのは事実である。

私たちの対応策の選択肢は限定されていった。当初、大阪女子大と総合科

学部の間人科学系との再編案を模索してみたが、各学部にはそれぞれの伝統と存在根拠があって、外圧によって簡単に組織を割れるものではない。それは、私たちにしても同じである。また、経済学部との再編案も浮上していたが、この案は教員規模の数合わせとしてはともかく、社会福祉学部・同研究科の教育・研究目的や部内の大多数の教員の専門領域などからしても、現実的な案ではなかった。経済学部にも、それなりの見解があったと思う。つまり、こうした非常事態の下では、相互にプラスになる再編案以外、実現の可能性はないということである。相互間の信頼関係も、ギブアンドテイクを前提にはじめて生きるものではなかろうか。今、私は改めてそう考えている。

実現可能性の可否はともかく、考えられるあらゆる選択肢を部内で協議し、対外的な折衝を経て浮上したのが、人間社会学部・同研究科の一翼に私たちの現行組織をそのまま組み込む最終案であった。2002年4月に入って、全学の事情は切迫していた。大阪女子大人文社会学部と総合科学部文系との統合再編案（同理系も同じ）が現実化し、私たちの部局の去就に最終的な関心が集まっていた。これ以上、ぐずぐずしてはいられなかった。

この小さな教育研究組織の存続を至上命題にして、すでに私は部局であることをやめる決意をしていたから、迷いはなかった。5月16日の臨時一般教授会において、上記案を提案し議決された。私が作成した当時の記録を見ると、今後の協議事項として以下の諸点が記されている。①各部局所管の図書館・図書資料室の位置づけ、②事務体制（社会福祉学部の場合、主として教務・入試事務）のありかた、③入試制度のありかた、④「研究機構」（府立大の2学部）のありかた、⑤各学舎利用のありかた、⑥その他、のうち、少なくとも現在、①と⑤は懸案事項のままである。②も流動的で定まらない。

教授会決定以降、私の主たる任務は、統合再編の相手である2部局との連絡調整にあたることであった。こんなことがなければ会うこともなかったであろう諸先生方と、連日連夜はオーバーにしても、長時間協議し論争した。酒を飲んで喧嘩もしたが、信頼関係は芽生えていった。お互いの教育研究組織を認め合い、長所を生かしながら短所を補い合う合意が形成されていったのだ。この2年間の最終責任は私にあるが、悔いてはいない。

人間社会学部・同研究科、社会福祉学の教育研究組織の今後に、私は期待している。